

2008年7月1日 アップグレードマクロご利用上の注意点

昨日書き忘れてしまいましたが、アップグレードマクロのご利用にあたり、以下の点にご注意ください。

エクセル2002以上をご使用の場合、アップグレードを行なう前に、マクロのセキュリティ設定で「Visual Basic プロジェクトへのアクセスを信頼する」(エクセル2007の場合は「VBAプロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する」)にチェックを入れる必要があります。

詳細は、KFシステムクリエイターのオペレーションページ下段にある注記をご覧ください。

処理は必ず、基準システム⇒2nd Layerシステム⇒3rd Layerシステム、の順で行なってください。ただし、例えば順張りシステムについて上記の順で処理を行なった後、逆張りシステムで同様に行い、続いて移動平均システムで行なう、といった方法は問題ありません。あくまで、参照元となるシステムを先に処理する必要がある、ということです。

また、凍結してあるシステムはアップグレードできませんので、事前に解凍しておいてください。

アップグレードの途中でエラーが生じた場合は、ファイル名に間違いがないかどうか確認してください。修正後、アップグレードマクロ以外のブックを全て閉じ、再度アップグレードボタンを押せば、処理を再開します。

なお、アップグレード済みのファイル名をシートに残したまま(処理欄が「済」の状態)、パラメータブックを削除する設定でアップグレード処理を再開すると、エラーが生じて処理が中断することが分かりました。

アップグレードマクロファイルを修正いたしましたので、お手数ですがダウンロードページより再ダウンロードして差し替えてください。ファイル名を設定済みの場合は、従来ブックの8行目以降を差し替えたブックの同箇所にコピーしてください。

ちなみに、昨日も申し上げましたように、アップグレード処理には大変時間が掛かります。概ね、従来のファイル更新時間の2倍程度となります。アップグレードするシステムを小分けにするなどして、パソコンの他の処理にできるだけ影響を与えないよう、計画的に処理を行なってください。

例えば、全てのシステムを登録した後、1銘柄(35システム)毎に空白行で区切って処理を行い、処理が済んだら空白行を削除していく、といった方法が有効かと思えます。

ちなみに、処理済のシステムファイル名は、そのままシート上に残しておいても問題ありません。

なお、本アップグレードマクロでは、最初に、処理可能な状態の全ての旧システムのパラメータを抽出し、必要があれば旧システムを削除した後に、新システムの復元処理を行ないます。

これは、ハードディスク容量の圧迫を回避するとともに、パラメータ抽出の際に旧システムのファイル名を参照する必要があるためです。

もしも逐次処理で、旧システムからのパラメータ抽出⇒旧システムの削除⇒新システムの復元という処理を繰り返すと、アップグレードに失敗する場合があります。

旧システムの削除設定を行なう場合、アップグレード処理は必ず、銘柄単位、もしくはシステム(基準システム+全ての追加システム)単位で行なうようにしてください。

以上、ご不明な点等ございましたら、お問い合わせページよりお問い合わせください。